

介護現場のコロナ対応 ～クラスターの経験も踏まえ～

尼崎市・尼崎医療生活協同組合 介護事業部部長
介護老人保健施設ひだまりの里 事務長 藤岡 裕子

初めに

2020年12月26日に突如として介護老人保健施設ひだまりの里で発生した新型コロナウイルスのクラスター。老健としてBCPを作成し準備はしていたが、準備していたBCPは「陽性者は入院し、残された濃厚接触者のケアを提供しながら事業継続する」というものであった。ところが、第3波で兵庫県下入院できるベットが満床との事で、陽性者は施設内に留め置かれ、我々施設職員は陽性者のケアをしながら残された濃厚接触者、非濃厚接触者のケアを提供せざるを得ない状況となった。不十分なBCPであっても、あることによって迅速な対応が可能となった。

経過&対応のまとめ

施設内に3名の陽性者（レッド）、3階フロア全体が濃厚接触者（イエロー）、4階フロア全体が非濃厚接触者（グリーン）となり、年末年始で物流もストップする中、施設としてレッド、イエロー、グリーンの対応を行った。一部業務を縮小しながら「今は命が優先」を合言葉に利用者の命と職員・職員家族を守るために職員一丸となって取り組んだ。

PCRを繰り返し実施し、1例目キャッチから約3週間で終息させることができた。施設としてどのような対応をしてきたか振り返りまとめて報告する。

終わりに

施設内クラスターはワクチン効果もあるのか第5波では市中で発生への報告はない。しかし、保育所クラスター、学校クラスター、職場クラスターは依然として発生しており、職員の家族が陽性者になってしまうケースが多くなってきた。ワクチン接種している職員は感染しなくとも、家族が感染した場合、濃厚接触者となり家族の陽性解除から14日間の経過観察を行ってからの復職ができないルールとなっている。最短でも24日間の休業を余儀なくされるため、少ない職員体制でどのように事業を継続していくかが今後の課題となっている。コロナ対応は多様化しており、その都度、事業継続を一番に考えBCPを作成していく必要があると考えている。